

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿（3月28日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

本日、図書館に新しい本がたくさん入りました。その中から5冊紹介いたします。

はじめに、一般書のご紹介です。

1冊目は、『じゃって方言なおもしとか』という本です。これは鹿児島の方言で、「だから方言はおもしろい」という意味です。著者は、国立国語研究所に勤務されている木部暢子さんです。木部さんは、2009年まで鹿児島大学の教授でいらっしゃいました。この本では、鹿児島方言・喜界島方言・与論方言と東北方言を中心とりあげているので、私たちが身近に感じられる内容となっています。

私たちがふだん何気なく交わしている会話の中でも、ちょっと立ち止まって考えてみると、疑問に感じことがあるかもしれません。たとえば、「だんご、食べない？」ときかれたとします。そのときあなたがだんごを食べたくないとき、「はい、食べません」「いいえ、食べません」どちらで答えるのが正しいと思いますか。よく考えるととまどいませんか。

奄美方言についてもいくつかふれています。「アンマー」は「お母さん」を指すのか、「お婆さん」を指すのか。また、「私たち」の意味である「ワーチャ」と「ワンナー」の違いは何なのか。みなさんはうまく説明できるでしょうか。

2009年、ユネスコが「世界消滅危機言語」を発表しましたが、奄美語もリストの中に加えられました。話すことばとして、方言がぜひ引き継がれていってほしいものです。

2冊目に紹介する『アンパンマンの遺書』という本は、実は、やなせたかしさんが亡くなられる20年近く前に書かれたものです。この本のあとがきは昨年2月、つまり亡くなれる8か月前に改めて書かれています。「遺書」とありますが、やなせさんの人生がありのままに綴られており、アンパンマンの誕生についてもふれられています。もともと幼児向きに書かれておらず、内容も哲学的で、アンパンマンがなぜ幼児にうけてしまうのかよくわからない、と意外とも思われることも書かれています。「なんのために生まれてなにをして生きるのか」がアンパンマンのテーマソングです。これはやなせさん自身のテーマソングでもあるそうです。この本を読み進めていくと、ところどころにやなせさんの謙虚な生き方が感じられます。

次に児童書の中から2冊紹介します。

もうすぐ4月です。新しい気持ちで学校へ通うみなさん、突然ですが、学校の図書室に行つたことがありますか？まず紹介する本は、福本友美子さんという方の書いた『図書館のトリセツ』です。トリセツとは取り扱い説明書の意味です。つまり、図書館の正しい取り扱い方を楽しく知る本です。図書館とは本がたくさんあるところです。読む、借りる、返す以外にもいろんな使い方があります。図書館を探検してみるとたくさんの発見があります。そして本と仲良くなってほしいです。本はきっとあなたの味方です。『図書館のトリセツ』を読んで、図書館を大いに活用し、あなたの世界を広げてほしいと思います。

次に紹介するのは、『さがしています』という写真絵本です。アーサー・ビナードというアメリカの詩人が書きました。ページをめくると次々に写真が現れます。止まったままの古ぼけた時計、炭化したごはんが入ったままのアルミのお弁当箱、影だけ残された銀行の石段。これらは全部、広島平和記念資料館に所蔵されているもので、戦争の語り部たちです。8月6日のあの時、彼らは突然持ち主を失いました。70年近くがたとうとしている今でも、持ち主を捜しているかのように私たちに訴えかけてきます。静かなメッセージのこめられた本です。

次は郷土に関する本のご案内です。

みなさんは、沖縄の豆腐を食べたことはありますか？食べたことがある方はご存じでしょうが、一般の豆腐よりかたく、一丁がかなり大きいです。最後に紹介する本は、『沖縄シマ豆腐』物語です。沖縄では豆腐は、チャンプルーや汁物、祭りなどの行事料理など生活に欠かすことのできない食材です。著者である林真司さんが、シマ豆腐の歴史を探るべく沖縄に限らず大阪や東南アジアまで足をのばし、シマ豆腐の魅力について語っています。この本を読むと、沖縄のシマ豆腐の奥深さを感じ、きっと食べたくなることでしょう。

さあ、春です！どんよりと曇った日の多かった冬も過ぎさり、新緑のまぶしい季節となりました。どうぞ、奄美図書館にもおでかけくださいね。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。